

ハイランドレポート
(高原通信)

Highland report !?

D.A.R.C 那須ケアセンター・ニュースレター

第3号(2003. 6. 5)

那須ケアセンター
施設長 栗坪千明

早春の候、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

私たちがこの黒磯市にやってきて、はや4ヶ月が過ぎようとしています。この4ヶ月は私たちにとって貴重な4ヶ月だったと実感しています。

特になかなか触れることのできないシイタケ栽培や山での作業は私たちにとっていろいろなことを教えてくれました。作業中は普段見られない自然の景色や、普段かくことのない労働の汗で、心地よい疲労感というものを感じることができました。こんな場所が与えられたことにとっても感謝しています。

私は、6年前に茨城ダルクの門をたたきました。たたいたというより連れて来られたというのが正解でしょう。何しろひどい状態でした。初日に出された食事は(今でもよく覚えています)鳥のから揚げで、のどを通過いかずに吐き出してしまいました。体の衰弱もひどかったのですが、何しろ精神面がズタズタでした。生きていく自信が全く持てずに、何に対してもやる気が持てず、とにかく「皆と同じことをしよう」と毎日それだけを念じて暮らしていたことを思い出します。入寮当時の私を知る人は、とても暗い奴と思っていたそうです。

その暗さに輪をかけるように、入寮1ヶ月ごろから毎日炎天下の下マラ

ソンを始めました。頭の中に霧がかかっているようで、気持ち悪く感じていたからです。マラソンをした直後はスッキリしたような気がしていましたが、すぐに霧がかかるので毎日しなければなりませんでした。本当に頭が狂ってしまったと毎日絶望的でした。

そこから救ってくれたのは、やはり仲間でした。皆同じ病気だという親近感と何もなくてもここにいるだけで良いという安心感がそれでした。

あれからもう6年です。あっという間なのか、長かったのか不思議な時間でしたが、いつの間にか頭の中の霧もとれて、今は生きる望みと未来への希望があります。

今年の2月、あの雪の中、ここ黒磯に来てから毎日があれもしなくちゃ、これもやらなくちゃと私にとっての施設の原点を考える時間がありませんでした。初めて茨城ダルクに行ったときの安心感をこの施設でもつくって行きたいと思っています。



もみじ谷大吊橋（自分達も彫った作品の前で）

のり・パプア・タツヤ・クニ・ワタル・ピース

ヨコ・太郎・デン・ケイスケ・トキ

グッチ・シャネル（犬）

まだまだ

のり

自分が依存していた薬は覚醒剤で、友人に薦められました。使い始めの頃は仕事と薬の両立をするつもりで、3年は上手にできていたと思います。仕事、友人、恋人、親と共に生きていくのに必要だと思っていたものが、すべて薬には在ると思ひ、幸せすぎて不安に思った事があります。その幸せが



一つずつ崩れて最初は彼女との別れで、凄く悲しくシラフでは乗り越えられず薬をいっそう使うようになりました。そのころ友人たちは、一人また一人と薬から離れていき、最後には自分が一人だけになった様な気がして、仲間がいない寂しさから売人やチンピラ、自分が最も軽蔑していた人たちに近づいていきました。

覚醒剤の被害妄想でトラブルばかり起し、26歳の時に親の通報で警察に逮捕され、留置所の中で薬を止めようと思ひ決心を固めたつもりでした。裁判の結果、執行猶予3年、懲役1年6ヶ月の判決を言いわたされ、仕事は逮捕された事がきっかけでクビになり、新しい仕事を探そうとしましたがやる気も無く、出てきてからちょうど1ヶ月目にまた薬を使い始めました。

それから3ヶ月間、薬を使いつづける毎日でした。そんなある日に両親に警察から呼び出しが来ていると聞かされ、「ダルクに行くか警察に行くかどちらかにしろ」と言われ警察に行ったら刑務所、それだけは嫌だったので、訳も分からずダルクへ行くと言ひ、10分後にはダルクの人が家に来ていました。

最初は茨城の施設に連れて行かれましたが、実家も茨城に在るので5日目に福島の施設に移動になりました。薬が少しづつ抜けて体は回復していき、仲間との違い探し、「薬を止めようと思えば止められ施設も仲間も必要は無い、こんな所は一秒も居たくない」とそればかり考えていました。3週間で地元に逃げ帰り、その日からまた薬を使っていました。使えば使うほどおかしくなり、行く所が無いそれだけの理由でダルクに戻り、またダルク生活が始まったけど自分の病気を認めようとしなかつたし、それどころか毎日施設や仲間の違い探しばかりで自分の頭の中は忙しかった。

その後も何度か施設を逃げ出したりスリッパを繰り返し、28歳の時に仲間と一緒に施設を出てNAメンバーのアパートで薬を使って居ました。そんな生活はつづく訳もなく10日で仲間とバラバラになり、被害妄想や体の不調でこのまま行ったら死ぬと思い、もう薬は使えないと、初めて気づきショックでした。それまで自分は皆と違う、まだ薬は使えるし皆がおかしいだけ、俺は間違っていないしおかしくも無いと思っていました。



それから暫くして施設に来てから2年が過ぎました。その頃、仲間から新しく栃木に出来る施設に行かないかと言われ、それまで仲間たちが研修をやる事に疑問を感じていましたが、先ゆく仲間が「自分自身の為になる」と言われその一言があって決心しました。今までの人生の中で自分自身の為とか、そんな事は真剣に考えたことなんて無かったし、やって見る事にしまし



た。現在は4ヶ月が過ぎ仲間を手助けするよりも自分自身が気づかされる事ばかりで、これからは薬で失ってきた物を取り戻せたら良いなと思っています。

6月の予定

3日	茶臼岳登山
12日	レクリエーション(カラオケ)
22日	とちぎアディクションフォーラム参加

献品のお願い

地域がら安いゴルフ場などが沢山ありますので、レクリエーションでゴルフに行きたいと思えます。

でも肝心のクラブが無い為、練習もできないので、使わなくなったゴルフ道具が有れば助かりますので、献品をお願いしたいと思います。

週間プログラム

日	土	金	木	水	火	月	曜日 時間
起床 7:20 ・ 朝食 7:30							
● セルフケア	● ミーティング	● ミーティング	● ミーティング	● 山林プログラム (軽作業)	● ミーティング	● ミーティング ● スタッフ ミーティング	午前(九時～十時半)
	室内清掃・動物の世話・昼食 等						
	● セルフケア	● パソコン	● スポーツプログラム (那須S.O.スイミングドーム)	● ミーティング	● ステップ ミーティング ● コンゲーム	● ハウス ミーティング ● 洗車	午後(一時半～三時)
夕 食							
● 峰カトリック教会 (宇都宮) ● 須賀川カトリック教会 (第一日曜日)	● 施設ミーティング	● 施設ミーティング	● 施設ミーティング	● 那須教会	● 施設ミーティング	● 松が峰カトリック教会 (宇都宮) ● 郡山細沼教会	NAMミーティング
就 寝 23:30							



茶臼岳登山(磐梯の仲間と)

お礼

先月皆さんにお願い致しましたところ、食材やパソコンなどたくさん集まりました。ありがとうございます。

献金をいただいた方

荻野祥子様 飯島 博様 佐藤美代子様 俵 和子様 国島 賢様
佐藤忠雄様 安部和子様 水井清次様 川上ひで子様 森 裕様 川合 洋様
青木けい子様 會野昌弘様

献品いただいた方

岡田三男様 柳田一芳様

献金のお願い

那須ケアセンターは慢性的な運営費不足に苦しんでいます。

献金用の払いこみ用紙を同封させていただきますので、献金のご協力を
よろしくお願いいたします。